新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ　http://niigata-ksk.sakura.ne.jp

会　長　稲田 春男
TEL　025-536-3958

事務局　伊藤 明徳
上越市仲町4-2-23-704
TEL　025-522-1905

会報編集　遠藤 俊一
新潟市西区青山1-13-28
TEL　025-265-4181

令和４年度 岩登り講習・研修会報告

指導技術委員会
委員長　堀口 寿彦

1．岩登り講習・研修会の概要

開催日　令和４年６月19日（日）

場　所　新発田市　内の倉ダム杉滝岩

参加者　４団体＋個人31名（一般24名＋指導７名）

岩登り講習・研修会は、コロナ禍のため令和２年・３年と中止したため、三年ぶりの実施でした。本年度に入り、感染者はまだみられるものの、ワクチンもかなり普及し各イベントも復活しつつあります。本会もそのような状況を踏まえ、再開を決定しました。

中止期間中及び本年度も開催について問い合わせが時々あり、本会の開催を待たれている方もおられることを感じておりました。近年いわゆるクライミングは、室内でのスポーツクライミングに人気があり、登山としては通常の尾根を中心とした教室・イベント等が多く開催されています。その中で、アルパインクライミングを目的としたこのような講習・研修会は比較的珍しいようですが、室内から野外への拡大を目指す方や、一般登山者でも危険個所の通過技術やアルパインクライミングへの橋渡しの意味も含め、存在価値があるように思われます。

2．講習会実施模様

実施に当たっては、例年通り参加者を主に経験から、A（リード経験者）８名、B（トップロープ・フォロー経験者）７名、C（初心者）９名の３クラスに分け指導を行うものとしました。

実施内容はおおむね上段の表１の通りです。

工程は各班ともおおむね順調に進んでいましたが、10時30分頃急な降雨に見舞われ、そのままやや早い昼食へ予定変更しました。かなり強い雨でしたが、幸い昼食休みの間に回復し再開できました。近年の雨は短時間に強く降るような傾向に変わってきているように思われます。

実施については、Aクラスには例年通り指導委員を中心に自由に活動してもらいました。岩場については一般ルートから高難度部まで全体をこなし、午後は東屋下部でのロープ登りまで進んだようです。

B・Cクラスについては、今年度からの試みとして駐車

表１

	場所	実施内容
Aクラス	岩場Aフェース 岩場Bフェース 隣接、高難度部含む 周辺岩場及び東屋 ロープ練習箇所	クライミングシステムの確認 現地実施、懸垂下降等 リード、フォロークライミング及び交互練習 岩場、高難度部含む（岩場Aフェース周辺部） ロープ登り等
Bクラス	岩場Cフェース 岩場Aフェース 一般ルート	クライミングシステムの確認 懸垂下降等、セカンドクライミング、セカンドの確保（ムンターヒッチ、ルベルソ・ATC）、リードの確保、リード、フォロー交互練習、支点のとりかた、危険個所の通過
Cクラス	駐車場 岩場Cフェース 一般ルート	道具・システムの理解 結び方　エイトノット・マッシャー 自己確保、懸垂下降、確保技術 セカンドクライミング クライミング練習、支点のとりかた、一般道危険個所の通過

場下部で懸垂下降のセットについて合同で確認し、その後Bクラスは岩場Cフェース、Cクラスは駐車場でそれぞれ実践に移りました。例年懸垂下降の実施については、安全確保の問題もあり、かなり時間がかかっていましたが、この方法により若干スムーズに進められたように思われます。

Cクラスもかなり順調なようで、ほぼ10時30分頃には岩場のCフェースに移動できたようでした。このクラスは、とにかく岩場を経験してもらうことが目的の一つになりますので、それはおおむね達成できたように思われます。

次にBクラスについてですが、ここは私の指導担当の班でもあり、若干詳しく記してみたいと思います。このクラスは一応クライミングの経験はあるが、リードは未経験（または非常に経験が少ない）という方を想定しています。この段階はいわば一つの壁のようなもので、フォローからリードへの移行はかなり精神的にも抵抗が大きいようです。しかし、アルパインクライミングとしてはどうしても通過する必要がある段階でもあり、今回はできるだけ経験していただくことを目標としました。

例年は、岩場Cフェースの横から上に登り、まず自己確保と懸垂下降を中心とし、自己の安全を図ることを習得した後、登るトレーニングへと移行していました。この場合最初の懸垂下降にかなり時間をとられ、登るトレーニング時間が不足気味になっていました。そこで今回は最初に我々講師がリードで登り、続いて参加者がフォローで登った後、フォローの確保に移り、その後、懸垂で下降するという手順としてみました。この方法では、講師が岩場の上下に分かれれば、最初にリードの確保の仕方、続いてフォローでのクライミングとフォローの確保、懸垂下降と一連の作業を１回で経験できます。これで比較的余った時間を、一部のリード経験も含めほぼ予定通りの時刻（10時30分）に岩場Cフェースを終了させて、岩場Aフェースへと移動することができました。

岩場Aフェースでは、極力リード経験をしてもらうことを目標としていましたが、総合講師の五十嵐さんがフェース左側に比較的容易なマルチピッチコースを整備してくれていたため、経験の少ない方でもリードとマルチピッチクライミングを体験できました。最後は時間がかなりギリギリにはなりましたが、全員がリードの経験ができたことは良かったと思います。

また、このような講習・研修会では手法の統一も課題となりますが、ここでは懸垂及び確保用器具については、エイト環とバケツ型（フォロー付含む：ルベルソ，ATC等）とし、フォロー確保については、それらを失った場合を想定しムンターヒッチも加えました。懸垂下降のバックアップについては、下降器下部にフリクションノットをマッシャーにてセットする方式に統一しました。これはバックアップスリングにかかる力が比較的小さくでき、止まった後の再活動が容易な点が初心者の安全性につながると判断したためです。

実際に講習・研修会を実施してみると、経験の浅い方はクライミングの到達点で支点作成や自己確保のやり方で戸惑うことが多いようです。こ

登山・ハイキング・クライミング
テレマーク&山スキー
Mountain & Outdoor Parr Mark
パーマーク
長岡市西宮内2-97（長岡市役所裏通り）
TEL0258(37)1200・FAX0258(33)1164
●営業時間/AM10:30～PM8:00水曜定休
http://www.parrmark.co.jp

八海山
食に寄り添い、心を通わす。
Alongside your cuisine and your life.
HAKKAISAN
www.hakkaisan.co.jp

れはインドア経験者でも同様であり、安全なクライミングのためには必要なことと考えさせられました。

3．次年度以降の岩登り講習・研修会について

今回コロナ禍の影響がありつつも講習・研修会を再開できたことは大変良かったと思います。次年度以降もコロナが完全終息しない状態でも、何らかの対処を行いつつ続けていくことになると思います。

内容に関しましては、今回はブランクがあっての再開であったことから前回の方法を踏襲しつつ、若干の手順変更にとどめました。基本的には次年度以降もこの路線を守りつつ、改良していくことになると思います。

インドア中心のスポーツクライミングがより盛んになるなかで、今回のような岩場中心の講習・研修会の必要性については、やはり安全登山の一環として必要性が感じられました。

少なくとも新潟県では、このような従来からの岩登りを中心とした講習・研修会はほとんどみられないこともあり隠れた需要があるようです。

なお、講習・研修会が実施できるのは，杉滝岩という環境があるからだということをより実感し、岩場の整備にあたられている五十嵐さんと関係者の方々には，感謝しきれない部分があります。今年度も参加者の方々によるカンパをいただきました。

今回も無事に講習会を終了できたことに対し、山岳関係者及び参加者の皆様に感謝を申し上げます。

2022年登山普及委員会企画山行
『平標山登山』報告

和田　守（小千谷ハイキングクラブ）

開催日　令和4年6月19日（日）
参加者　24名
ルート：松手山コース～山頂～平元新道周回

山行委員会主催の谷川連峰西端の平標山（１９８４ｍ）登山に参加しました。

平標山登山口でＣＬの渡辺さんから、今回のコース説明と遠藤副会長の挨拶の後、７時10分、梅雨空の中を出発した。人気の高い山でもあり、県内外からの大勢の登山者が見られた。

当初のコースは平元新道から登り、山頂を経て松手山を下山の計画だったが、雷雲の発生と落雷の予報があって、安全を考えて、雷回避のため早めに尾根道を通過しようとのリーダーの判断で、逆コースの松手山から山頂を目指し平元新道へ下山のコースに変更となった。

登山口から、急な登山道をジグザグに登り、目安となる鉄塔付近で一息ついた。しばらく休憩の後、展望のきかない尾根を登り松手山に９時に到着。樹林帯を抜けたここから、遠くは多くの残雪を抱く苗場山が良く見える。また、時折吹き上げてくる風が心地よい。やがて一ノ肩を通過し緩やかな稜線を進む。ハクサンイチゲが咲き乱れるお花畑を見ながら稜線漫歩、いつの間にか平標山々頂に到着する。11時だ。山頂は大勢の登山者で賑わっている。大勢の登山者の重みで標高が下がるのではと冗談も・・・。

（山頂にて）

山頂から仙ノ倉山への縦走路にはハクサンコザクラなど多くの高山植物が咲き、いつ訪れても気持ちの良い場所で、天上の楽園だと思う。

山頂からは木道の階段を下り、平標山之家に12時に到着する。思い思いの場所で昼食を取り、12時40分出発。ブナの原生林を眺めながら平元新道を下る。平元新道登山口に13時40分到着。ここからは河内沢沿いの林道を歩き、平標山駐車場に14時20分に到着した。

解散式で今回の実り多き登山交流や次回の山行への参加が案内された。心配した雷にも遭わず無事に山行を終了することができた。運営に当たったスタッフの皆様に感謝申し上げたいと思います。

（ハクサンイチゲ）

令和４年度 第１回安全登山講習会

遭難対策委員会
委員長　中村　政道

実施日
令和４年６月26日（日）
会場　粟ヶ岳県民休養地
ビジターセンター及び粟ヶ岳中央ハイキングコース
参加者　17名

遭難対策委員会は３年ぶりに安全登山講習会を開催した。夏の講習会は山岳遭難の中で最も多い「道迷い」を防止するため、地形図の活用と読図の基礎をテーマとして行われている。

最初の講義は遭難対策委員の新保さんによる「読図の基礎」である。登山では主に「山と高原地図」、「二万五千分の一地形図」、「スマホの地図アプリ（ＹＡＭＡＰなど）」が使用されているが、一長一短がある。国土地理院発行の「地形図」を知ることによって、地形を理解するのに役立つ。等高線の意味と等高線であらわされる尾根と谷を知り、地形図に尾根線、谷線が引けるようになると、平面の地形図を立体的に把握することができるようになる。

さらにコンパス（プレートコンパス）を使うことによって、ナビゲーション（現在地を把握すること、進むべき方向を知ること）ができるようになる。そのためにはまず地形図に磁北線を作図する。ナビゲーションの基本は地図の正置（整置）である。正置とはコンパスと磁北線を一致させて地図を正しい向きに置くことである。こうすることで実際の地形と地図の対照ができる。また１-２-３（ワンツースリー）システムは現在地がわかっている時、進むべき方向を知る方法である。この技術は現地で行うだけでなく、事前に地図に書き込んでおくこともできるので、ルートを失いやすい雪上のナビゲーションに特に有効となる。

次の講義は遭難対策委員の坂場さん、島さんから地形図を活用した登山計画作成と地図アプリの活用について研究協議を行った。坂場さんは実際の登山で使用した地図をスライドで投影し、先の１-２-３システムを使った進行方向（コンパスの角度）や地形図から読み取れる情報を細かく書き込むことによって的確なナビゲーションができることを示した。また島さんは経験を踏まえて地図アプリ使用のメリットと注意点を説明した。しかしお二人に与えられた持ち時間が短すぎ、十分な研究協議ができなかったことが反省点である。

三つ目の講義は新潟県警山岳遭難救助隊長・田辺さんによる講話である。令和３年度の統計によると、40代以上が84％（内60歳以上は54％）と中高年の遭難件数が多い。また原因別では道迷いが最も多く、続いて滑落・転落が多いということである。遭難に至る要因はまず準備不足、次に思い込み（慢心）である。状況を過小評価しようとする「正常性バイアス」に気を付けなければならない。

道に迷ったら引き返す、沢を下らないこと。悪天時には風雨を避ける行動とその準備をしてほしい。雷に遭ったら高木の下は避ける。熱中症対策としては喉が渇く前にこまめな水分補給を心がける。熱中症になったら衣服をゆるめ、首やわきの下、太ももの付け根など太い血管がある部分を冷やす。意識がない場合は至急１１９番通報をしてほしい。救助要請は現場から１１０番、１１９番に電話する。スマホから電話すればＧＰＳ機能によって場所の特定ができる。

遭難者の計画書の提出率は約２割しかない。計画書を作ることによってコースの把握に役立ち、それをメンバーと共有することができる。家族にも写しを置いていく。提出方法の定めはないが、県警では「コンパス～山と自然ネットワーク」を推奨している。「コンパス」は「ヤマレコ」とも連携している。（なお一部の県では「ＹＡＭＡＰ」で計画書を提出すると県警にも提出されるようになっている。新潟県の他、近県では群馬県、長野県、岐阜県が対応している。）計画書作成に当たっては、自分の力と対象の山とのギャップを小さくするために各地域で作成されている「山のグレーディング」を活用してほしいとのこと。田辺隊長、

ありがとうございました。

昼食後、水源地対岸の嶽山寺～長瀬神社～東屋（３８７ピーク）～水源地というコースで実技研修を行った。気温の高い日だったので水分を多めに持って出た。現在地の確認、地形図と実際の地形の対照、先のルートの予測、進行方向の決定などナビゲーションの実習を行いながらルートをたどった。

（東屋（３８７ピーク）にて）

途中参加者１名に軽い熱中症の症状が出たため、遭難対策委員１名とともに下山してもらった（下山後回復した）。

暑い中参加された皆さま、大変お疲れ様でした。例年二日間で行っている内容を一日に圧縮したため、質問や協議などに十分な時間が取れなくなってしまったことをお詫びします。地形図やナビゲーションを学ぶことによって道迷いを防ぐとともに、地図を読む楽しみを知って安全で楽しい登山を行いましょう。

弥彦山たいまつ登山祭３年振りの開催

弥彦山たいまつ登山祭委員会
委員長　楡井　利幸

実施日
令和４年７月25日（月）
参加者　約１５０名

越後一宮・彌彦神社の夏祭り「灯籠神事」に協賛、新潟県山岳協会が中心となり、昭和29年から実施してきた弥彦山たいまつ登山祭は今年で67回を数える。ここ２年、新型コロナウィルス感染症の影響で中止されてきたが、伝統ある行事が再開され喜ばしい限りだ。

今年は例年より梅雨明けが早く、いつも心配していた天候の不安もなく開催できた。午後４時ころから、弥彦山山頂の彌彦神社御神廟付近に県内外の岳人が続々と集まってきた。午後５時からは彌彦神社神官による祝詞奏上、そして玉串奉奠の神事が執り行われた。例年この後お神酒が振舞われたが、コロナ禍のため今年は取り止めとなった。その後御神廟裏手に会場を移し、稲田県山協会長による「安全登山の為に」と題した記念講演が行われた。山岳遭難の種別内訳・年齢層・遭難内容などの表をもとに、どのようにしたら遭難を防ぐことができるのか、自身を過信せず、事前対策し、情報収集し、登山届を出すことなどをわかりやすく講演された。

そして、午後６時、いよいよ行進の始まりだ。５～６名の山岳団体代表のたいまつに火がともされ、９合目から下山開始だ。このころはまだ明るく、暗くなり始める５合目付近で、全員のたいまつに火が灯された。暗闇にたいまつの火が浮かび上がり、幽玄の世界を見ているようで、あちこちから感嘆の声があがっている。何度見ても暗闇に連なるこの灯の行進は見事だ。

（点火直後の登山隊）

彌彦神社に到着。権禰宜からお祓いと歓迎の挨拶をいただいた後、鼓笛隊の先導で、町の中心街を行進する。それに呼応するかのように花火が打ち上げられ、町の多くの人たちの拍手に迎えられながらの行進で、いやがうえにも祭りは盛り上がる。例年は弥彦駅までの行進だが、今年はヤホール前の広場までのやや短い行進でちょっと物足りないかなと思うが、これもコロナ禍の対策でやむを得ないのだろう。ここで、記念の手ぬぐいをいただいて、解散となった。

事前のたいまつ作成、たいまつの山頂への荷揚げ、使用後のたいまつの片づけ等に携わっていただいた方々の支えがあってこそ、この素晴らしい祭がおこなわれていると思います。関係された方々に心から感謝申し上げます。

今後も、７月25日の彌彦神社の灯籠神事に合わせ行われる「弥彦山たいまつ登山祭」に多くの県下の岳人が参加されることを願っています。ぜひ、ご参加ください。

第43回北信越国民体育大会（福井大会）を終えて

7月23日（土）～24日（日）福井県福井クライミングセンターにおいて第43回国民体育大会スポーツクライミング競技会が実施された。

1日目は各種別ともボルダリング競技、2日目はリード競技の実施であった。本国体フリー参加の成年男子を除き、成年女子、少年男子、少年女子の3種別で本国体出場目指して競技を行った。（本国体出場は各種別とも2チーム）

成年女子

初日、新潟チームは4番目でボルダリング競技をスタートした。栗田は1課題目と4課題目を完登するが、2課題目3課題目ともにゴールに手は届くものの保持できずに完登には至らなかった。坂井は1課題目ゾーンを獲得したものの2・3課題とともに完登はならなかった。しかし4回目を見事完登し、意地を見せた。結果ボルダリングは第3位とした。

2日目はリード競技、新潟のスタートは1番手であった。トップバッター栗田。順調に高度を稼ぐも39手目から上のホールドを狙ったところでフォールし、完登を逃した。坂井は緊張のためか登りが固くなり12+のところまでしか高度を稼ぐことができなかった。結果、リード競技は3位となった。総合でも3位ということで、残念ながら本国体進出を逃す結果となった。

総合では1位長野、2位福井、3位新潟、4位石川であった。

本国体の出場は逃したが栗田は1位の長野、2位の福井の主力選手と実力が伯仲しており、それだけに悔しい思いをした。

この悔しさを今後の成長につなげてほしい。坂井はクライミングを始めて1年ほどでこれだけの力を付けてきているので今後に期待できる選手である。二人の今後の活躍に期待したい。

（成年女子監督　竹井　康祐）

少年男子

1日目のボルダリングは選手の自己申告のレベルの幅が大きかったためか、課題の難易度にかなり差がある設定となっていた。いわゆる「ウエルカム課題」と呼ばれ4課題のどれも完登できない選手が出ることを避けようとする課題が1課題目に設定され、それ以外がかなり難しい設定となっていた（1課題：2級、2課題：1級から初段、3課題：初段、4課題：1級）。1課題目は参加選手全てが一撃での完登、それ以外の課題は誰も完登ができないという結果になった。すなわちボルダリングはゾーンの獲得数とゾーン獲得までのトライ数で勝敗が決したことになる。

そのような接戦の戦いの中、島田が集中したクライミングで1課題目以外に2課題目、3課題目のゾーンを獲得し、チームのゾーン獲得数を4とした。石川と長野がともにゾーンを5つ獲得し、1位、2位。富山県も新潟と同じくゾーン獲得数は4であったが、トライ数の差で3位富山、4位新潟という結果になった。

2日目はリード競技。課題設定は3種別中最も高難度の13bのルートであった。普段はなかなか練習できないリード競技であったが、合宿等の練習で集中的に練習を重ねてきた。新潟県は4番スタートで新潟の伊藤がトップバッターを務めた。伊藤は昨日のボルダリングの鬱憤を晴らすようにどんどんと高度を高めていった。25手26手あたりは持ちやすいホールドが少なくクリップに苦労したが、なんとかクリップをして28手目まで到達することができた。他県の選手もやはりクリップに苦労し、なかなかそこを突破できる選手がいなかった。結局29手まで高度を伸ばした石川の選手に続いて個人順位第2位となり、リードの県順位2位獲得に貢献した。

結果は、ボルダリングが4

位、リードが２位ということで、総合３位を獲得することができた。ボルダリングのボーナスが一つ取れていたら総合で本国体の出場権を獲得できたかもしれないという僅差であった。

二人とも中学３年生で、北信越国体に参加できる年齢なったばかりということを考えるとよく健闘したと言える。また、次年度以降への期待も膨らむ大会であった。

今回は県予選終了後、集中的に練習会や合宿を行い、着実に力を伸ばすことができたように感じる。来年度に向けて今後さらに練習を継続していきたいと考えている。

（少年男子監督　今井　浩二）

少年女子

大会初日はボルダリング競技から始まり１課題目からランジの課題でかなり難しく他県の選手も含め完登者がでなかったが、小林は１課題目を何回もチャレンジしてもう少しで止まるってところで時間になってしまった。２課題目もスタートからの１手目が遠く、それを保持出来てゾーンを取れても、次の１手がまた遠く完登までは二人ともいくことができなかった。

３課題目を小林、４課題目を布施が登っていたがあまりうまくいってないようなので交代し３課題目を布施、４課題目を小林に登るよう指示した。スラブ課題で時間がかかりそうな４課題目だったが、ここで小林が集中して１トライで完登した。続けとばかりに、小林からアドバイスを受けて布施がチャレンジしたが、タイムアップで惜しくも完登することができなかった。

ボルダリングは、二人にとって初完登もあり３位で終えることができた。

２日目のリード競技の設定は13Aでかなり難しいルートだった。ホールドも見た目からして持ちづらそうな感じだったのでオブザベーションで下部から集中してスリップしないように注意していこうと話し合い、小林からスタートした。

練習会や合宿を行いリードも力をつけてきて去年と比べると迷いもなく登っていったが、核心部分の遠い１手で落ちてしまった。次の布施は小林からアドバイスをもらい順調に高度を上げ核心部分まできて、気合で乗り越えて高度を上げて24手まで到達した。ただ最後に手を出せずに落ちたので＋が付かなかった。＋がつけば個人順位３位まで上がったので、これは今後の課題になる。

リードは４位、最終順位で４位でした。

今年は他の種別と一緒に練習会や合宿を行い、良い刺激を受け練習出来ており練習の成果も出てきているので来年度に向けて継続していきたい。

（少年女子監督　栗田　陽輔）

加盟団体の山行から
柏崎山岳会 創立70周年記念山行

柏崎山岳会　船岡　綾子

柏崎山岳会創立70周年記念の第５回米山古式登山が、６月11日の夕方から12日の午前にかけて行われた。10年に１回の記念登山で御嶽山神社から徒歩で米山山頂を目指す弾丸登山です。10名が参加した。

柏崎市中心市街地の鵜川河口付近にある御嶽山神社での安全登山祈願修祓後、会員のUさんに見送られて午後６時15分に出発。いつ雨が降ってもおかしくない空模様だったが、中浜→大洲→番神→鯨波まで元気に会話しながら歩く。鯨波駅に到着し、これからの長いロードに備え20分ほど休憩をとる。国道８号線を渡り、川内ダムに向かう頃には日没となり、民家や車の通りもまばらで急に閑散となる。ヘッドランプを点けると顔をめがけて虫たちが飛んでくる。計画では北山街道を進む予定だったが、藪が凄く歩くのが難しいとのことで今回のルートに変更となった。

六拡トンエルを抜けた所で２回目の休憩をとる。時折通る車からは、私たちはどう思

われているのだろう。「おかしな集団がいると通報されたら困るね」などと話しながら、谷根の集落を目指す。花ももの里の公園では、若者たちがキャンプをしていた。「何をしているのですか？」と聞かれ、「柏崎の市街地から歩いて来て、これから米山に登ります」と元気な中高年をアピール。谷根の集落では、丸々太った動物に遭遇した。アナグマ（後で調べた）のようだったが、慌てて逃げることもなく、歩く姿が可愛かった。

その後は、吉尾まで続く長くて固いロード歩きが足腰にきて辛かった。３回目の休憩をとり、単調な道を黙々と歩く。予定より１時間早い午後９時50分に吉尾登山口に到着する。

雨が心配だったので休憩を短縮し、午後10時10分に登山を開始する。廣井会長を先頭に小休憩を入れながら順調に登って行く。山頂まであと１時間位の辺りから雨が降ってきたが、レインウエアを着ることなく進み、午前０時30分に無事山頂に到着した。

頂上小屋では、一足早く登って来たＳさんのご主人と合流して、御神酒をいただいた。他の泊りの方々の迷惑にならないように夜食をとり、午前２時から５時まで仮眠をとる。

翌朝は、肌寒く小雨が降っていて視界はゼロ。朝食後、記念の横断幕に寄せ書きをした。レインウエアを着て薬師堂の前で集合写真を撮り、午前６時15分に下山開始。谷根コースは距離が長く、急な箇所も多い。そのうえ雨で滑り易いので、緊張感から冷や汗が出る。スパイク付きの長靴を履いていたＫさんが羨ましかった。何度も滑りながらも、３時間かけて、ようやく新猿飛橋に到着。午前９時30分だった。迎えに来てくれたＵさんから一本ずつ御神酒をいただいての解散となった。その後も会長ほか３名は、御嶽山神社まで歩いて帰ったと聞いて驚いた。途中樹海のような藪漕ぎに悪戦苦闘しながらも、お昼頃には無事到着したとのこと。

今回は、生憎の天気で夕陽とご来光を拝むことができず残念だったが、いつもと違ったかたちで米山を登ることができて満足している。サポートしてくれたＵさん、Ｓさん大変ありがとうございました。

（米山々頂薬師堂前にて）

今後の行事予定

登山普及委員会企画山行（平ヶ岳）	10月１日（土）～２日（日）
第77回国民体育大会スポーツクライミング競技（成人男子）（栃木県壬生町）	10月２日（日）～４日（火）
第２回安全登山講習会（角田山）	10月16日（日）または10月23日（日）
新潟県小・中学生クライミング大会（新潟市・CAMP４）	10月29日（土）
第74回自然保護研修会（阿賀町・小会瀬、御神楽岳）	11月５日（土）～６日（日）

平成５年新年会はコロナ感染症の動向が不透明ですので、中止とします。

WEST
OUTDOOR LIFE STORE
新潟 / 三条 / 長岡 / 上越

賛助会員御入会・御入金のお礼

中　村　光　信　様

（７月１日～８月31日）

御賛同ありがとうございました。

新潟県山岳協会　会長　稲田　春男